

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
1	5月17日(土) 朝日ヶ丘集会所	ハードにお金をかけるのではなくソフトに投資する考えて、小学校の図書室と市立図書館を連携させ、学校でも図書館の本を借りられるようにすることや、図書館を講演のアーカイブなどを残せるデータセンターのような役割に改めていくことが重要だと思います。小学校を核にする発想は良いと思いますし、プールのように季節で使えない施設は民間の休館日を利用してこどもに開放するなど既存の施設を有効活用すべきだと考えます。 最後に、芦屋・西宮・神戸といった規模差を踏まえたスケールアップの指標を示すことが、各行政セクションを比較する際に役立つのではないかと考えています。	図書館については今年度、市立の小学校・中学校の学校図書館と市立図書館(本館や分室)のシステムをつなぎ、小学生と中学生が市立図書館の本を学校図書館で受け取れるようになります。今後は電子書籍やネットの普及も踏まえて、貸し借りは遠隔でできるようにしつつ、物理的な図書館は人が集まって出会いが生まれる場として活用していきたいと考えています。 ほかの地域も参考にしながら、プールなどは民間施設の休館日利用なども含めて考えていきたいと思ひますし、芦屋と近隣都市の比較指標についても整理していきたいと思ひます。	
2	5月17日(土) 朝日ヶ丘集会所	図書館について、JR駅の近くに新しい施設を作る場合、既存施設を集約してそこに分室を設けるなどすれば、人の出入りが多い場所て利便性が上がるのではないかと思ひます。大きなスペースを取らなくても貸し借りができれば便利だと思ひます。	ありがとうございます。確かに静かにしなさいいけないということは、言われることがあります。 以前、個人的に愛知県豊橋市の「まちなか図書館」を見学したことがあります。いわゆる静かな図書館ではなくて、みんなでわいわいするようなコンセプトを打ち出した図書館です。本を借りる人しか来られません、てはなくて、ふらっと行けるようなそういう場所はいいなと思つたので、そういったことも参考にしたいなと思ひます。ありがとうございます。	
3	5月17日(土) 朝日ヶ丘集会所	芦屋の図書館は静かでお話がしにくいという印象があるので、こどもが集える場所やお母さんたちがそばでお茶できるような子育てに優しい図書館があると良いと感じて思ひます。芦屋にはそうした自然と集まれる場が少ないと感じます。茨木市の「おにクル」がよかったです。		
4	5月17日(土) 朝日ヶ丘集会所	神戸のこども図書館では建設時に市民の寄贈による蔵書があったと聞きました。芦屋でも年に一度、市民が持っている本を集めて、使える本は蔵書に加えるような仕組みを取り入れて市民の財産を有効活用することを考えてほしいです。	本と古着を交換するイベントは今年の3月に実施しました。市民の持ち物を活かす取り組みは広報も含めて今後も進めたいと考えて思ひます。	
5	5月17日(土) 朝日ヶ丘集会所	市民活動センター(リードあしや)についてですが、営利目的の取り扱いがあいまいでケースバイケースな対応に戸惑いがあります。講座などで参加費をいただく必要がある場合もあるので、その線引きや説明が統一されていない点が気になります。また、施設の愛称と正式名称が案内表示で統一されていないため案内がわかりにくいと感じて思ひます。	ご意見ありがとうございます。 営利目的のご利用については、リードあしやに限らず、ここの集会所や市民センターなど、いろいろな公共施設でよく課題に挙がります。なぜ営利目的がNGになっているかというと、公共施設は市民の皆さんが使いやすいように料金を安く設定しているからです。もし民間業者などが営利目的でたくさん使ってしまうと、本来の市民活動ができなくなってしまうため、制限を設けているのだと思ひます。 ただ、『どこからが営利目的か?』という線引きは難しいですね。この辺りの線引きは、もう少しうまく調整できたらいいと考えて思ひます。	
6	5月17日(土) 朝日ヶ丘集会所	体育館、公民館、市民センターなどそれぞれ所管が異なり、同じような施設でも利用基準や予約条件がバラバラで使いにくさを感じます。	昨年4月に文化やスポーツの担当を市長部局へ移しました。組織の連携は進んで思ひますが、まだ課題もあるのでしっかり確認して思ひます。 施設ごとの予約ルールがバラバラで「ネット予約にしてほしい」というご意見もいただいています。これには理由がありまして、一番は「市民の皆様を優先したい」という思ひからです。市外の方も利用できる現状で完全ネット予約にすると、市民の方がかえって使いにくくなる懸念があります。 今後のシステムの見直しのタイミングで改めて考える必要があると思ひますが、皆様が一番使いやすい形を考えたいと思ひます。	
7	5月17日(土) 朝日ヶ丘集会所	ルナ・ホールは催しが少なく活用が進んでいないと感じて思ひます。もっと民間プロモーターに開放して若い世代の催しを増やせば来場者が商業施設を利用するなど商業の活性化につながるのではないかと考えます。将来的に大きく使い切った後は再開発の可能性もあるのではないかと考えます。	民間のライブやコンサートは一部で受け入れて思ひますが、定員や規模の面でプロモーター側に魅力が薄い可能性があります。建物自体は坂倉準三建築研究所による設計のため、簡単に改変できない制約もあります。芦屋の中でどうやっていい建築を守っていくかということ、それはさておきどうやって上手く有効活用するのかというのはバランスを取って考えないといけないと思ひますので、ルナ・ホールをすぐ建て替えましようということにはならないのですが、バリアフリーの問題もたくさんあるので、そこは引き続き考えたいと思ひます。	

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
8	5月17日(土) 朝日ヶ丘集会所	市民ファーストという観点で、営利かどうかではなく、市民のためになるかどうかで線引きすべきだと考えています。例えば市営タクシーや市営駐車場のように、市が直接管理することで高齢者や体の不自由な方への配慮が可能になるのではないかと考えています。民間事業者は採算が合わない路線は減便したり撤退したりするので、市民ファーストを徹底するなら市が責任を持って運営する選択肢もあるのではないかと思います。営利かどうかではなく目的が市民のためかどうかで判断すべきだと考えています。 タクシーの運転手とかを全部市の職員にするのはどうでしょうか。例えば1人しか乗らないところ、誰も乗らないところにバスを通すことは民間は止めたいと言うと思います。そうなった場合に市が補填したお金は企業に行きますが、例えばそれが市の職員だったら市に行っているだけだからなんてことないと思います。	公共施設を考えるにあたっては「そこへ行くための交通手段」とセットで考える必要があると思っています。現在、民間のバス会社も運転手不足などで減便が続いており、市としても公共交通をどう守っていくか、皆さんと一緒に考えていかなければなりません。 その一環として、これまでバスがなかった三条・山芦屋エリアで、今年の3月末からタクシー型のデマンド交通の実証実験をスタートしました。今後1年間、どれくらい使っていただけるか、持続可能かを検証していきます。デマンド交通は市が実施主体で、ドライバーは阪急タクシーに委託している形です。施設づくりだけでなく、交通手段の確保にも取り組んでまいります。運営主体を市にするか民間に委ねるかは議論が必要ですし、補填や費用の行き先なども含めて慎重に検討したいと思います。	
9	5月17日(土) 朝日ヶ丘集会所	朝日ヶ丘は高齢者が多く公共施設が少ないので、地域を回る小型のバスが公共施設を結ぶような運行があればふらっと活動しやすくなると感じています。阪急バスについては、JR方面へは出られるものの、阪急方面へ向かうバスが大幅に減ってしまいました。	本日提示した形のように、JRと阪神の駅周辺は、芦屋の中では2大拠点なのでそこに大きなものは集めつつ、地域ではいかに地域の人たちが使いやすいものを入れていくかということが重要なかな、と改めて思います。	
10	5月17日(土) 朝日ヶ丘集会所	先ほど「地域の身近な拠点として学校を活用していく」というお話がありました。 しかし学校には、子どもの安全やセキュリティ面での制限がどうしても付きまといます。例えば休日の開放など、具体的にどういった形で市民が使えるようにしていくお考えなのでしょうか。その構想を少しお聞かせください。	今日一番お話ししておかなければならなかったテーマですね。ご質問ありがとうございます。 大前提として、これは来年すぐにガラッと変えようという話ではなく、少し先を見据えた構想です。なぜ学校の活用を考えているのか、理由は大きく2つあります。 1つ目は「少子化」です。先日『二十歳の集い』がありましたが対象者は約1,000人でした。一方、昨年芦屋で生まれたお子さんは約500人。たった20年で半分になっています。今後、児童数が減って学校に余裕スペースができた際、そこを地域でうまく使えないか、というのが1つ目です。 2つ目は「すでに少しずつ活用が始まっているから」です。現在も土日を中心に、コミュニティ・スクール等が体育館や教室を使っています。これをもう少し広げて、一般の市民活動や集会所、図書スペースなどとして使っていけたらと考えています。 もちろん、ご指摘の通りセキュリティは非常に重要です。例えば、一般の方は職員室エリアには入れないようにする、子どもたちと完全に動線を分ける、といったハード面の対策が必須だと思っています。2、3年ですぐできる話ではありませんが、安全を確保した上で、地域の皆さんにうまく使っていただける未来を描いていきたいと考えています。	
11	5月17日(土) 朝日ヶ丘集会所	学校の数は集約や統合で減らないという見込みですか？	今後の学校のあり方については、「人数の問題」と「これからの教育の形」という2つの視点で考える必要があると思います。 まず人数の問題ですが、少子化により現在の8校を維持していくのは将来的には困難です。直近の課題としては幼稚園があり、新入生が1桁の園もあります。これはコスト面だけでなく、「同級生が数人という環境が子どもにとって本当に良いのか」という教育的観点から、今年度しっかりと議論を始める必要があります。 一方で、安易に「学校を統廃合する」と宣言することは少し違うかと思います。20年、30年先の学校は「毎日同じ教室に通う」という今の形から大きく変わっている可能性もあるからです。地域での授業や自然の中での学習など、カリキュラムのあり方も変わっていくでしょうし、今後の激動の20年を見据え、教育委員会とともにこれからの学校のあり方を考えて行きたいと思っています。	
12	5月17日(土) 朝日ヶ丘集会所	なぜ小学校なのでしょう。	中学校と小学校では、小学校の数が多く、かつ身近な「校区」というと小学校なので、小学校で想定をしています。	

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
13	5月17日(土) オンライン	公共施設を真ん中に集中させることで、芦屋の機能が維持できる根拠が分からないので理由を聞きたいです。	公共施設は、市内に1つは必要だが多くはいらないものと、地域の近くにあった方がうれしい日常使いのものに分けられます。前者はどことも良いわけではなく、行きやすさと交通手段が重要です。高齢化や免許返納も見据えると、公共交通が整うJR芦屋駅・阪神芦屋駅をハブとして大きめの施設を配置するのが持続可能だと考えています。一方で地域の居場所まで駅前前で完結させるのではなく、こどもが歩いて通える小学校を活かしたいです。	
14	5月17日(土) オンライン	市民生活に不可欠な公共施設として、最低限確保すべき水準や予算についての議論が必要ではないでしょうか、改修や建て替えを行ったとしても維持費はかかり続けますし、数十年後には再び更新問題に直面します。だからこそ、市として守るべき水準を明確にすることが重要だと考えます。 そこで質問ですが、市長をはじめとする庁内や、市民ワークショップなどにおいて、この「キープすべき公共施設の水準」についての議論はなされているのでしょうか。 例えば、増加する社会保障費などと比較して「市民1人当たりいくらの公共施設費を維持すべきか」といった視点での議論があるのかどうか、お聞かせください。	今後の社会保障費なども見込むと、公共施設に使えるのは年平均27億円程度で、市の年間予算(400～450億円)の約6%です。現状の施設を全て維持し続けると年平均30億円程度かかる見込みなので、差として約1割分の縮減が必要だと見えています。これは人口減と単純に1対1で運動するものではなく、現時点の見込みです。民間施設でも公共的に使える場所があり、市の持ち物以外にも含めて工夫できる余地があると思います。	
15	5月17日(土) オンライン	主要拠点を作る場合にアクセスのための交通整備をどう考えていますか。	拠点化に合わせた交通整備も重要で、道路網としては芦屋は縦移動が弱く、市内の公共交通網は阪急バスが中心です。バスが通いにくい三条・山芦屋では、今年3月からデマンド型交通の実証実験も始めています。芦屋の交通整備をどう守っていくかということは同時に考えていきたいなと思っています。	
16	5月17日(土) オンライン	20から30年後の公共施設の将来像を描き、そこから逆算して計画を進める必要があると思います。財源や高齢化を考慮して維持費のかかる新規施設の建設は原則停止とし、代替できるものはデジタル化やAIを活用すべきです。また、リードあしや、ウィザスあしや、国際交流センターなど、管轄が異なっても貸し部屋等の類似機能を持つ施設は一元的に統合することも必要ではないでしょうか。一施設の立地については、駅周辺の一等地は民間に開放し、多少不便でも駐車場等を備えた場所に市役所を含む多機能複合型施設を集約させ、ワンストップでサービスを受けられる拠点を整備していくべきだと考えます。	20～30年後の未来から逆算して施設のあり方を考えるべきというご意見、仰るとおりだと思います。将来に向けて、デジタル化で縮小・代替できる機能と残すべき機能を区別することが重要です。特に地域の人々が集える物理的な場所は健康寿命等に好影響を与えるため、耐震化や空調整備が進む小学校を有効活用するなど、地域の拠点は大切に維持したいと考えています。一方で、築60年を超え更新時期を迎える市役所北館などではデジタルへ移行できるものは代替を進めていく方針です。また、ご指摘のあった複数の類似施設(リードあしや、ウィザスあしや、潮芦屋交流センター)については、市民活動、男女共同参画、国際交流とそれぞれ設立目的が異なるため現状は分かれています。ただ、ほかの施設を含めて予約方法が統一されていないといった課題は今後の検討事項だと考えています。なお、JR芦屋駅南地区再開発ビルの3階に整備する公益施設については、来年度に用途検討の市民ワークショップを開催予定ですのでぜひご参加ください。上層階の住宅部分は、元々の地権者の方の住居や建設費捻出のためのものとなっています。	
17	5月17日(土) オンライン	似た施設が多く違いが分かりづらいと思います。駅周りに集約されているわけでもなく立地もバラバラに感じます。JR再開発でマンションより公共施設が良いのではないかと思いました。温泉に行ったときには若い人が来る所じゃないと言われて行きづらくなりました。		
18	5月17日(土) オンライン	芦屋のゆとりや健康づくりの場は残ると良いと思います。 ゴミ処理を神戸に任せて費用削減になるのか、震災時に不安です。	芦屋らしさや文化は大事にしたいです。芦屋は「国際文化住宅都市」として文化を大切にしてきた街であり、豊かな暮らしにとって文化は欠かせないものだと考えています。そして、今の魅力的な「芦屋らしさ」を作ってきたのは、市役所だけではなく、市民の皆さまのさまざまな活動があってこそだと強く感じています。だからこそ、これからも市民の皆さまとしっかり手を携え、一緒にまちづくりを進めていくことが何よりも大切だと思っています。 ゴミ処理場は建替え時期で、神戸の施設で受け入れ可能なら運搬費等を含めても約4割安くなる見込みです。大規模処理は効率が良い発電量も増え、CO2削減にもつながると考えています。過去の震災時と同様に民間業者や他の自治体としっかり連携し、広域でゴミを処理できる体制づくりを進めて備えていきたいと考えています。	
19	5月17日(土) オンライン	公共施設の整理・統合を進めるにあたり、これからは施設単体で考えるのではなく、多様な市民の皆さんがどう使いたいかを「横串」で話し合うステップが大切だと思います。地区ごとの特性を活かした取り組みにすることで、市民自身が施設の維持に関わっていくことに繋がるのではないのでしょうか。 ルナ・ホールと市役所という大きな施設をうまくつづけれないかなと思います。例えば茨木市の複合施設「おにクル」のように、用事がなくても日常的に行きたくなるような場所に市役所機能も組み込むことができれば、より良い市民環境ができるのではないかと考えています。	施設のあり方を「横串」でネットワークとして考えるという視点はとても重要で、機能ごとにバラバラに施設を配置するのではなく、地域ごとに機能をまとめた「拠点」を作っていくという、私たちが現在目指している方向性とまさに重なります。また、地区ごとに市民の皆さまと一緒に施設の活用や維持を考えていくというご提案についても、芦屋市には小学校単位での「学校運営協議会」などの取り組みもあるため、学校を拠点として地域ごとに考えていくことと非常に親和性が高いと感じており、大変参考になりました。	

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
20	5月17日(土) オンライン	芦屋市民病院も古くなってきていると思います。高齢化で利用も増える中、将来的なキャパや施設の充実がどれくらい進んでいるのを知りたいです。	市民病院は2012年に新病棟ができています。それに合わせて個室割合を増やしたり、緩和ケア病棟を新設したりしてきました。一方で公立病院はコロナ後に経営が厳しく、芦屋病院も赤字になっています。病院は市役所の一組織ではなく病院という一つの会社のような形で、市長が社長を任命します。経営をどのように評価していくか、赤字が増えている中で立て直しを今年度本腰を入れて進めます。	
21	5月17日(土) オンライン	若い世代としては、「公共施設がどこにあって何に使うものなのかわからない」という人が多く、私自身も市役所での手続き以外に利用するイメージが湧いていません。そのため、若い世代にどうやって施設を知ってもらい、日常的に活用してもらうかが大きな課題だと感じています。もし、若い世代が普段からもっと施設を利用しやすくなれば、将来自分が結婚した時の子育て施設の利用などにもスムーズに繋がると思います。さらに、施設を通じてご年配の方など幅広い世代との交流が生まれれば、それが芦屋の豊かさや持続可能性を支える「心の教育」にも繋がっていくはずです。だからこそ、誰もが気軽に行きやすいように、学校や市役所を中心に施設や機能をひとまとめにしていくという方向性は、とても重要だと思いました。	若い世代の方が公共施設を使うイメージが湧かないというのは、非常によく理解できます。実は私もこの仕事に就くまでは、学校以外で公共施設を意識して使った経験がほとんどなく、わざわざ行こうという気持ちにはなかなかありませんでした。だからこそ、「どういった形やきっかけがあれば、若い世代の方々にも自然に足を運んでもらえるのか」「どのような空間であれば日常的に使いたくなるのか」という点は、これから皆さんと一緒にしっかりと考えていかなければならない重要なテーマだと思っています。	
22	5月17日(土) オンライン	街路樹や公園のグレード維持がまちの価値につながると思います。市だけでなく近くの人に関わってメンテナンスする流れができるといいと思います。	植栽は芦屋が費用をかけている一方、声も多く、費用とやりすぎない剪定のバランスが難しいところです。「市民の皆さんによるメンテナンス」については、すでにうまくいっている地域もあり、大変素晴らしい取り組みだと思っています。例えば、現在開催中のオープンガーデンでも、街路樹の根元にきれいなお花を植えてお手入れをしてくださっている方々がいらっしゃいますよね。公園などでも少しずつそうした動きが出てきているので、こうした取り組みをさらに広げていけたらと考えています。	
23	5月17日(土) オンライン	障害のこどもがいて養育支援センターを利用しています。幼稚園から小学校へ上がる時の選択や調整が大変で、支援がスムーズになると安心です。長所を伸ばし、継続的に支えるインクルーシブな市であってほしいですし、今後もそういった子たちにもサポートや公共の施設を残していただきたいと思います。	芦屋市では、共に学び育つ「インクルーシブ教育」を大切にしています。入学前にたくさんお打ち合わせをしているのも、お子さんが安心して学校生活を始められるようにという思いからです。市としても支援員や介助員の配属、配置の日数とか、延べ人数を増やしたりしているのですけれども、ご不安な気持ちに寄り添い、さらにサポートを充実させていきたいと思っています。	
24	5月17日(土) オンライン	小学校で開催された「お餅つきフェスティバル」に参加した際、地域のスポーツクラブの方や先生方が協力して盛大に開催されていて、地域にどんな人がいるのかを知る出会いの場になっただけでなく、平和な日常の中でこうしたふれあいを持つことが、いざ災害が起きたときの「助け合いの練習」になるいい取組だと思いました。	まさに人が集まる「場」の意義そのものだと思います。集まる場の意義は、出会いとつながりが生まれ、暮らしを豊かにし、住み続けたいと思えることにあると考えています。今、コミュニティ・スクールのお祭りなどで学校を使っていたいただいているのは、学校をそうした「つながりの場」にしていく第一歩ですので、ぜひ今後ご参加いただければ嬉しいです。	

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
25	5月27日(火) 茶屋集会所	市営住宅の空き家活用について、リノベーションして市職員の宿舎にしてはどうでしょうか。芦屋は職員の市内居住率が低いですが、50戸転用するだけでもかなり上がるはずです。学校の統廃合について、先延ばしにするのではなく、「このままでは1クラスになりますよ」という推計データを早めに提示して、もっと早い段階で合意形成を進めるべきだと思います。学校プールについて、プールの廃止とアウトソーシングをしてはどうでしょうか。評価方法などの課題はありますが、建設費や水道代、管理費を大幅に削減できます。図書館について、市長が「JR南側に図書館を造りたい」とお考えだと聞いています。もし造るなら、今の公民館と大原の施設は廃止する前提でしょうか。門真市や西宮市のように、図書館を駅前の「根幹機能」として据えるお考えでしょうか。	市営住宅ですが、空室がある一方で待機者も多く、特にエレベーターのない4階建ての上層層が空きがちなのが課題です。そこで現在、大東町でその部分を若者向けにリフォームする計画を進めており、半年後にはお披露目できる予定です。空室を職員宿舎に、というアイデアは、市民の皆様の理解が得られるかというハードルはありますが、空き家活用の貴重なご意見として承ります。ちなみに職員の市内居住率は現在2割ですが、市役所から徒歩30分圏内に職員の約半分が住んでいるため、災害時の初動体制は一定確保できている状況です。 学校の統廃合については、20年後の新しい学校のあり方から考える必要がありますが、直近で園児減少が深刻な幼稚園については、今年度から議論を始めます。学校プールのアウトソーシングも、移動手段などの課題はありますが、前向きに検討していくべきだと思っています。 最後にJR南側の施設ですが、来年度のワークショップで使い道を議論します。私個人としては「人が集まる図書館的な機能」が良いと考えていますが、その場合は近くの大原町の図書館大原分室や公民館図書室をどうするか、セットで考える必要があると認識しています。	
26	5月27日(火) 茶屋集会所	JR芦屋駅南側の施設についてです。図書館も良いですが、通勤の行き帰りなどに立ち寄れる「ギャラリー」のような場所にしてはどうでしょうか。市民センターにも展示スペースはありますが、現役世代や若者はほとんど行っていません。音楽会もできるような多目的ギャラリーなど、日常的に文化に接することができるところ作りが大変重要だと思います。美術館の来館者もかなり少ないのではないかと思います。「隙あらば猫」の展示は良いと思いました。美術館を馴染みのあるものにするのが大事だと思います。	美術博物館は来ていただく方が少ないと感じますね。良い展覧会や所蔵品もあり、テート・モダンに芦屋から作品を貸していることもありますが、知られていません。どう知らせるかが課題だと考えています。南側の公益施設も来年度考え、使ってもらえるものにしたいので意見をください。	
27	5月27日(火) 茶屋集会所	図書館や美術博物館、保健センターが遠く、バスも不便です。施設を巡るバスやマイクロバスがあれば行きたいです。		
28	5月27日(火) 茶屋集会所	不便な地域が多いので、有料でも赤字補填でも回さないと施設を支えられないと思います。		
29	5月27日(火) 茶屋集会所	先ほどの方とは違う視点になりますが、私は「分散コア型」のまちづくりを提案します。市長の「小学校に小さな拠点(コア)を作る」という案に大賛成です。今さら駅前に根幹施設を集約する「コンパクトシティ」の手法は、周辺エリアが取り残されてしまうため、これからの時代には合っていません。駅前に作るのは利便性のための分館程度で良いと思います。芦屋のような街では、駅前への一極集中ではなく、各地域の小学校などをコアにしてエリアの価値を高めていくべきです。交通の課題には小型カート(グリーンスローモビリティ)の導入などを検討していただき、各地域の価値を生むような公共施設の付加価値を作ってもらいたいです。	まず施設の集約についてですが、芦屋市は面積が狭いため、駅前に集約しても周辺が過疎化することは考えにくいです。駅前はバス路線の結節点であり、誰もがアクセスしやすいため、大きな拠点は駅前に置く方針です。一方で、日常的な居場所は各地域にも必要ですので、徒歩圏内にある「小学校」を地域の小さな拠点として活かしていきたいと考えています。	
30	5月27日(火) 茶屋集会所	子育て世代ですが、岩園から図書館本館や保健センターが遠いので、バスなどがあればいいと思います。または、行きやすい大原の図書館のような「身近な施設」を活用して、例えば、図書館の機能プラス「特定の曜日に大原の図書館で子育てサークルをやる」「保健師さんが出張してきて相談もできる」といったように、一つの施設で複数の機能が利用できるようになれば、子育て世代としてはすごく助かります。	交通の課題については、バスがないエリアでタクシー会社と協力し、「デマンド型交通」の実証実験を行っています。 図書館の利便性については、今年度中に阪急芦屋川駅にも返却ポストを設置し、市内4つの駅すべての駅周辺で本の返却ができるようになります。また、小学生、中学生のいるご家庭限定になりますが、今年度から市立小学校と市立中学校の学校図書館で市立図書館の本を取り寄せて借りられる仕組みも準備していますので、ぜひご利用ください。	
31	5月27日(火) 茶屋集会所	明石市のコミュニティバスを参考に、公共施設や商業施設を巡回するルートバスを、地元のタクシー会社に委託してみてもどうでしょうか。路線バス会社だけでなくタクシー会社を活用することで、市と業者の双方にメリットがあると思います。ぜひご検討ください。		
32	5月27日(火) 茶屋集会所	分館でも本館の本を選択できるようにして、その作業はボランティアで担えたらいいと思います。図書館ボランティアには意識の高い方が多くいます。そうした市民の力を借りることで、公共施設の運営予算も抑えることができるのではないかと思います。		

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
33	5月27日(火) 茶屋集会所	ラポルテががらがらでもったいないので、放課後にこどもが勉強できる場のようなみんなで集まって何かできる場所であるといいと思います。	3階にある市の施設「ラポルテホール」は、期日前投票や一部の展示、コンサートなどに貸し出していますが、普段は使われていないことの方が多い状況です。個人的には、こうした稼働率の低い施設も含めて見直ししていく時期だと考えています。	
34	5月27日(火) 茶屋集会所	美術博物館について、小学校の校外授業などで使ってはどうか。子どもたちが本物に触れる機会を作り、様々な能力を身につけてもらう場として役立ててほしいと思います。	美術博物館にはすでに全小学校が訪問しているため、今後の課題は、家族連れや中高生にどう興味を持って足を運んでもらうかだと考えています。 「本物に触れる」という学校連携の事例では、市の施設ではありませんが、山手小学校がヨドコウ迎賓館の協力を得て、園工の授業や作品展を行っています。今後もこうした素晴らしい取り組みを進めていきたいと考えています。	
35	5月27日(火) 茶屋集会所	先日、ある造園業者から「落札業者よりも安い金額を提示したのに結果をひっくり返された」として、署名を求めるチラシが全戸配布されました。業者側の一方的な主張であり事情が分からないため、どういうことが教えていただきたいです。	街路樹の剪定や公園の除草、道路の補修などは、職員の減少と効率化を背景に、数年前から民間への年間一括委託に切り替えており、この4月からその形で委託を行っています。 業者選定にあたっては、単に一番安いところを選ぶ方法ではなく、質や提案内容を含めて総合的に評価する方式を採用しました。街路樹の剪定などは質が非常に重要になるためです。その結果、金額面では他より少し上でしたが、実績や提案の質が最も高かった業者を選定し、事業をスタートさせています。 一方で、市内業者の参入については課題もあります。市としてはできるだけ地元の業者に参加してほしいと考えていますが、議会からも市内業者が少ないとの指摘を受けています。中には参加を辞退される業者もあると聞いており、一緒にやっていたけるよう、現在市が間に入って調整を行っている状況です。	
36	5月27日(火) 茶屋集会所	請け負った3社の共同体の中に、建設会社が入っています。道路や公園、樹木などの業務には直接関係ないように見えますが、そこが選ばれたのはマネジメント能力が評価されてのことでしょうか。	マネジメント能力も理由ですし、数年前から道路などの包括委託を担ってきた実績も含めて選んでいます。1社ですべてを行うのではなく、他社に依頼しながら、全体をまとめて差配できる体制として合同を選んだ形です。	
37	5月27日(火) 茶屋集会所	小学校の拠点化については賛成ですが、災害時の「集会所」の位置づけについて懸念があります。 高齢者にとっては、指定避難所である小学校は近いようで遠く、身近な集会所が避難所としての機能を持つことは非常に意味があると考えています。 しかし、市の広報では「一時避難所」や「避難所」と表記が揺れており、集会所には備蓄品が全く置かれていません。さらに、本日届いたひょうご防災ネットの避難所リストにも集会所は記載されていませんでした。 市として、災害時に集会所をどのように位置づけているのか教えてください。	災害時の避難について、芦屋市では住宅の耐震化率が約97%と高いため、家屋が安全な場合は在宅避難を基本としてお願いしています。その上で、自宅での生活が困難な場合の長期的な避難先として、停電時でも使えるエアコンなどを整備した市内8小学校と山手中学校を指定しています。一方、集会所は災害発生直後に一時的に身を寄せるための場所として位置づけています。長期間の寝泊まりを想定していないため備蓄品は置いておらず、県の避難所リストに記載されていなかったのも、長期滞在用の指定避難所を掲載していたからではないかと思っています。	
38	5月27日(火) 茶屋集会所	芦屋川周辺の剪定や除草は、市の管轄でしょうか、それとも県の管轄でしょうか。 芦屋川の風景は全国的にも類を見ないほど美しいですが、阪急芦屋川駅周辺はきれいな一方で、阪神芦屋駅周辺は草が伸び放題で、虫が気になり散歩しづらい状況です。これを県任せにしておくのは非常にもったいないと感じます。 例えば市民ボランティアなどを活用して川沿いを美しく保つことができれば、美術品の展示やビエンナーレのようなイベントを行うなど、もっと魅力的な場所にできるのではないかと考えています。	芦屋川の管轄は原則として兵庫県ですが、県からの依頼を受け、市が除草・清掃を行っています。実際の維持管理については、市の職員が直接行うのではなく、市が業者に発注する形で年に2回、大規模な草刈りを実施しています。ただ、年2回という頻度のため、草刈りを行う直前の時期にはどうしても草が伸びてしまっていると感じられることがあるかと思っています。 現在も市民ボランティアの方々を整備をしてくださっていますが、追いついていない部分もあります。	
39	5月27日(火) 茶屋集会所	芦屋浜にドッグランができると聞いて大変嬉しく思っています。 今は三田のフルーツフラワーパークまで行っているのですが、あそこはドッグランが充実しているだけでなく、無料駐車場や道の駅、おしゃれなカフェなどがあり、人が集まる魅力的な場所になっています。 今回、芦屋浜にドッグランを整備するにあたり、単にドッグランだけを作る予定なのでしょうか。それとも、周辺も含めて人々が足を運びたくなるような施設や環境を作る計画があるのでしょうか。	ドッグランは総合公園北西端に整備されます。大規模ではなく、フルーツフラワーパークのイメージとは差が出ると思います。 南芦屋浜は県がスーパー横に新たな商業エリアを考えているようで、そこが開くと楽しめる場所も増えるかもしれません。	
40	5月27日(火) 茶屋集会所	新たに芦屋に住む人を増やすため、他市にない公共施設機能があるといいと思います。例えばスケートボードパークがあると移住したい若者もいると聞きます。もう1つ、食料自給率を上げる発想として、空き地で公共施設の田んぼを作り芦屋の米にできないかとも思います。	スケートボードは場所の検討が必要です。芦屋の魅力を象徴するものは、最終的に「自然」と「文化」に行き着くと考えており、これらを大切にしていける必要があると思います。自然については、ホテルや鮎が生息する芦屋川など、この豊かな自然環境をいかに守っていくかが重要です。また文化については、施設などのハード面だけでなくソフト面が不可欠です。市民の皆様に応援していただき、より身近に親しんでもらえるような環境をどのように作っていくかが大切だと考えています。 田んぼは市民農園がありますが、抽選が厳しいとも聞いています。	

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
41	5月27日(火) 潮芦屋交流センター	小学校を地域の施設として使う仕組みは良いと思うのですが、コミスクなど長く続くコミュニティがある中で新しく転入してきた人が入りにくい課題があると思います。スポーツや文化活動で既に使っているからという理由で使えない場所があるので、そこを見直して施設が使えるようにしてほしいと思います。	コミスクに参加したことがある人も初めて聞く人もいます。コミスクは小学校の施設を地域で使う活動で、50年前からある良い文化ですが、どうやって新しい人が入っていくか難しい面もあるかと思います。今後施設をどうしていくか考える時には施設のハード面だけでなく、運営や参加の仕組み(ソフト)をどうするかも重要です。これらの考え方は、今回の公共施設のあり方だけでなく中学校の「部活動の地域展開」とも共通しています。コミスクの話に限らず、こうした仕組みや担い手の部分についても、ぜひ皆さんと議論させてください。	
42	5月27日(火) 潮芦屋交流センター	コミスクなどは今までの地域と形態が違うのでどうやって入っているのかわからないのが1つと、希望するクラブがないことも参加しづらい理由です。作ろうと思えば、今度はどうして立ち上げたらいいか手探りでわからないです。教室は余っているし、コミスクの教室というのはあるので活動しようと思えばいくらでもできるのではないかと思います。	新しい担い手が増えにくい背景には、「既存のコミュニティには入りづらい」「自分のやりたい活動がそもそも存在しない」そして、「新しく立ち上げたくても、そのノウハウが分からない」という点ですね。こうしたハードルをどう下げていくかが、今後の仕組みづくりには欠かせない視点だと思います。 地域や学校によって事情が違うので一概には言えないのですが、空き教室の活用については、実務上の課題があります。普通の教室には子どもたちの私物が置いてあるため、現状では使いにくく、コミスク専用の部屋や体育館などを使わざるを得ないのが実情です。 そして最大の課題が「セキュリティ」です。子どもの命と個人情報を預かる学校において、安全確保は絶対です。しかし、「安全のために一律立ち入り禁止」にしては意味がありません。 解決策として、「放課後や夜間のみ使う」という時間の分離や、「日中使う場合は子どもとの動線を分ける、職員室エリアは立ち入り制限をする」といった物理的な工夫が必要です。 安全を担保した上で、学校の図書室などをどう地域の資産として活かしていくか、今後しっかりと検討していきたいと考えています。	
43	5月27日(火) 潮芦屋交流センター	去年の秋、自治会で小学校を借りて防災訓練を行った際の反省点をお話しします。 運動場を借りる際、私たちは「市や学校に申請すれば使える」と思っていました。しかし実際には、普段使っている野球やサッカーのチームにお願いをし、特定の関係者に声をかけて許可を得るなど、複雑な調整が必要でした。 こうした「調整の順序」や「誰に許可をとるべきか」というルールが不透明で、結局のところ「一部の関わっている人しかやり方を知らない」という状態になっているのではないのでしょうか。この閉鎖的な仕組みが、施設を使いづらくしている原因の一つだと思います。	おっしゃる通り、学校の施設の利用にあたって「なぜ特定の団体に許可や根回しが必要なのか」と疑問に思う部分もあると思いますが長年ボランティアで地域の活動を維持・運営してきてくださっている部分も含めて、お互いを尊重し合いながら、新しいルールのあり方を皆さんと一緒に作っていきたいと考えています。 昨年度から『学校運営協議会』が始まっています。地域の皆さんにも学校運営に入っていただく仕組みですので、防災訓練の利用調整など、地域全体の課題はこの協議会をうまく使って話し合えればと考えています。	
44	5月27日(火) 潮芦屋交流センター	コミスクの組織は既に活動する人が多くて入りにくい状況があると思います。 「小学校を中心にしながらも、安全を確保しつつ、地域の交流を図りたい」と仰っていた部分ですが、鉄筋コンクリートの建物は寿命が50年です。一方で高齢化が進んでいる地域のことを考えると、老人が気軽に家を出て交流ができる場所が今よりもっと社会的に必要になってくるのではないかなと思います。そのときに、資産である小学校の校舎なり建物を多少改善して、アイデアを加えて、みんなが触れ合えるような場づくりのペースにできないかなと思います。	また、施設開放のスケジュールについて「建物の寿命(建て替え)まで待って改修した上で開放するのか」というご懸念があるかと思いますが、何十年も待つわけではありません。 大規模な改修は先になりますが、「動線を分ける」「オートロックを付ける」といった工夫で、安全を確保しながら使える場所を増やしていきます。5年以内に全て完了とはいきませんが、既存の施設とのバランスを見ながら進めてまいります。 実績として、今年度中に「全小学校の校門のオートロック化」と「全小中学校の体育館へのエアコン設置」を完了する予定です。これにより、防災面でも日常的な利用面でもかなり使いやすくなると思います。	
45	5月27日(火) 潮芦屋交流センター	「公園のルール」について聞きたいです。多くの公園で野球やサッカーが禁止されていますが、理由は「人に当たると危ないから」です。しかし実際は、人に当たる危険性がないほど公園は空いています。現状に合っていない過剰なルールではないでしょうか。 ボール遊びは学校で、と言われても、コミスクに入っていないれば使えません。また、コミスクの利用者は低学年が多く、高学年の居場所が見えにくく感じています。 習い事に行っている子も多いと思いますが、ただ純粹に「ボール遊びがしたい子」が自由に遊べる場所が、今の芦屋には少ないのではないのでしょうか。	芦屋市内に小さな公園は多いですが、ほぼすべての公園でボール遊びが禁止されています。その一番の理由は周辺からのクレームです。この声にどう向き合うか、今まさに地域全体で考えた方がいいと思っています。公園リニューアルの際に、地域の方と「ボール遊びができる公園づくり」について話し合いができればと思います。また、それを待たずに今すぐできる対策として、コミスクが使っていない時間帯の「学校の校庭開放」を進めていきたいと考えています。	
46	5月27日(火) 潮芦屋交流センター	親水中央公園周辺はツーバイフォー建築が多く音が反響しやすいので、早朝や深夜のボール遊びは生活に影響があり、外部から来る利用者との調整が難しいと感じます。ゆったりと過ごしたいと思い、ボール遊び禁止を前提に選んだ人もいますと考えています。小さなお子さんは大丈夫ですが、大きくなると力も強くなりますし、難しいですね。	ご事情を教えていただきありがとうございます。 まさに今おっしゃっていただいたような背景を伺うことで、「じゃあ早朝から遊ぶのはやめよう」といった、具体的な話し合いやルールの工夫ができるようになりますね。 お互いにただ我慢したり、一律で禁止したりするのではなく、今日のように地元の方々と率直な事情を共有し、一緒に話し合っていくことが本当に大事だと改めて感じました。	

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
47	5月27日(火) 潮芦屋交流センター	JR芦屋駅前の再開発が進む一方で、阪神・阪急の駅周辺は車での送迎スペースがなく、不便な状況が続いています。阪神芦屋駅の送迎利便性を向上させるため、駅に隣接する「市役所北側の空きスペース」を活用し、車寄せを整備できないかと考えています。高架化の話はあきらめたのでしょうか。 また、西宮と芦屋でゴミ焼却場を共通するという話について、それぞれが建てることになったと聞いています。共通化したほうがいいように思います。	阪神・阪急駅周辺の利便性向上について、皆様も課題に感じていらっしゃると思います。現在、市として具体的に進めている2つの取り組みがあります。 まず阪急周辺では、駐車スペース確保のため、芦屋川両岸の「一方通行化」に向けた準備を進めています。事前のシミュレーションでも有効だというデータが得られており、県や関係機関と協議を行いながら、実現に向けて動いております。 次に阪神周辺については、交通問題の解決に向けた基礎調査をすでに開始しています。高架化事業については国・県・市・阪神が一緒にやる事業で、実現には20～30年かかると言われており、すぐにすすめるのは難しい状況です。 ゴミ処理場については、今年の3月に神戸市と合意し、5年後を目処に芦屋の焼却場を廃止して、神戸市で処理することになりました。理由は、大規模に処理した方が環境に優しく、かつ芦屋で建てるより費用が4割程度安くなるからです。それに向けて準備を進めています。ゴミ焼却場は、芦屋市で建て替えることはありません。	
48	5月27日(火) 潮芦屋交流センター	ミニバスケットが中学校で使っていたが他団体からおかしいのではないかと言われ、使えなくなりました。解決できないでしょうか	学校の体育館やグラウンドなどの使い方について、どのように統一のルールを作っていくかは、大変難しいですが、本当に大事なことだと思っています。市の持っている場所は限られています。一番大事なのは、その限られた場所をみんなでどう使っていくかということです。この調整は、今後は市がしっかりと間に入って進めていきます。 皆様には少しずつ我慢していただくこともあるかもしれませんが、上手く調整してまいりたいと考えております。	
49	5月27日(火) 潮芦屋交流センター	熱中症対策についてです。7月や8月は暑くて屋外で活動できないとなると、早朝か、もしくはナイターでやるしかありません。でも、芦屋でナイターが使えるのは潮見小学校、浜風小学校、あと野球場くらいで、場所がすごく限られています。夏場はナイターがないと本当に活動できないんです。ナイターについて、潮見小学校は今も使っている一方で、浜風小学校でも使わせてほしいとお願したところ、自治会から数件の反対があったという理由で使えなくなっていました。 反対意見があるなら、対話をして「なぜダメなのか」を話し合い、問題をクリアにしていければいいと思うんです。誰か一人が「ダメだ」と言ったらそれでやめてしまう、という今のやり方は良くないんじゃないでしょうか。	公園の話題が出た時に、立場が違う双方の当事者の方々から直接お話を聞くことができましたよね。あれが本当に大事なことなんです。 「お互いの声を聞いて、話し合って解決策を探る」というやり方を、今後どうやって市内のいろいろな場所に広げていくかが大事だと思います。	